

地域別意見交換会の概要

2022年10月7日

安芸高田市 企画部 政策企画課

1. 地域別意見交換会の概要

- 地域別意見交換会は、前回策定委員会で挙げられた「地域コミュニティの活性化のきっかけになる取組をすべき」「地域の多様な住民の意見も反映すべき」といったご意見も踏まえ、今年8月～9月にかけて開催しました。
- 意見交換会は旧6町別に開催し、前回策定委員会で協議した地域の現状・課題や都市計画マスタープランの全体構想・分野別方針、今回策定委員会で協議する地域別構想の素案について説明したのち、地域の代表者（地域振興組織、保護者、高齢者、女性、商店会、病院・診療所、歯科、農協）と意見交換を行いました。
- 次頁以降に、意見交換会での主な意見と事務局の回答・対応方針を項目別に整理しています。

対象	各町の代表者（地域振興組織、保護者、高齢者、女性、商店会、病院・診療所、歯科、農協） ※新型コロナウイルス感染拡大防止の一環として参加者を限定
実施期間	甲田町 : 8月25日（木） 19時00分～20時30分 於 甲田支所 高宮町 : 8月26日（金） 19時00分～20時30分 於 高宮支所 美土里町 : 8月31日（水） 19時00分～20時30分 於 美土里生涯学習センターまなび 向原町 : 9月2日（金） 19時00分～20時30分 於 向原生涯学習センターみらい 吉田町 : 9月6日（火） 19時00分～20時30分 於 市民文化センター クリスタルアージュ 八千代町 : 9月7日（水） 19時00分～20時30分 於 八千代文化施設フォルテ
内容	地域別の状況等を取りまとめた資料により説明し、参加者との意見交換を実施した。 (1)マスタープランの全体構想の説明：マスタープランの策定意義について説明。 (2)地域別構想の説明：居住や機能の集約など土地利用、公共・都市環境等の方針について説明。 (3)地域の要望の聴取：地域別構想等に対する参加者との意見交換。

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 計画全般 (1/3)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
甲田町	安芸高田市都市計画マスタープランの作成自体に意味がない。吉田町の中心部は災害の発生率が高いところであり、こういったところでコンパクトシティを作っていく必要はないのではないか。	人口減少が進んでいる中で、地域拠点の整備について今考えなければ後になればなるほど難しい問題も出てくる。都市計画区域内の検討も必要であるが、それとは別に、市の全体的な方針を考えていく必要があると考えている。	—
甲田町	都市計画マスタープランという名称ではなく、まちづくりプランなのではないか。	都市計画法の規定で、都市計画区域のある市町村は法定計画である「都市計画マスタープラン」を策定する必要がある。甲田町は都市計画の及ばない範囲ではあり、本来であれば吉田町だけを対象とすればよいという話になるが、吉田町は甲田町等の他の町と連携することで存在しているため、全市を対象として計画を策定する方針としている。ご指摘の通り、中身としてはまちづくりプランであるかもしれないが、名称としては都市計画マスタープランとなる。	計画素案p1 (1-2節)
甲田町	財政の根幹は人口である。それを考えていないのであれば意味がない。そのためには農業の振興や工業の誘致等を考えるのが行政である。その中で住民と話し合い、計画が出来上がるものである。	本計画の策定にあたり、県の上位計画や市の総合計画、その他関連計画等との整合を取りつつ検討を行っている。また、今回の地域別意見交換会に加え、パブリックコメント等でも意見を収集する予定である。	計画素案p16-20 (2-2節)
甲田町	一貫した政策の中で物事を進めていくのならわかるが、一貫していない状況で新たな計画を作ろうとしている。新たな計画が必要なのは理解できるが、吉田町自体の機能が果たされているのかどうか、見直してはいいかがか。問題はそこだと思ふ。	本計画は今後20年間を見据えたまちづくりの方針を示すものであり、策定後は本計画の方針に基づき施策を検討していく方針である。また、特に都市計画区域内については、立地適正化計画を同時に策定し、区域内の都市機能等について分析を行っている他、今後、 具体的な取組等についても検討していく。	計画素案p2 (1-3、1-5節) 資料3
甲田町	根本の基礎的なデータの見方が甘い。数十年前の、現状に合っていない都市計画を引っ張ってきて、現在の都市計画を検討しようという考え方がどうかと思う。	今の都市計画区域は合併前に決定されたものであるが、合併の際に新市建設計画を作り、6町における方針を示してきた。一方、新市建設計画の策定からも15年以上が経過しており、今回新たなまちづくりの方針を示すため、最新の統計データ等を踏まえ、都市計画マスタープランの策定について検討している。	計画素案p3-37 (2章)
甲田町	JR芸備線のことが資料に度々登場するが、芸備線を市全体として残していこうとする運動がされていないように感じる。一方、三次市や庄原市は運動をしているため、新聞等にも出ている。安芸高田市においても市を挙げて運動してほしい。	JR芸備線の活用については、分野別方針の「交通」や地域別構想においても位置づけている。今後、 路線維持に向けた取組についても、周辺市町等と連携して検討していく。	計画素案p45,46 (3-3節) 資料2・p37,43
甲田町	マスタープランでは、人口減少に対応するためにはどうするか、という面でだけしか考えていないということか。	人口減少への対応だけを考えているわけではないが、人口減少という大きな課題に対し、コンパクトで持続可能なまちを目指す計画である。土地利用以外にも、産業や雇用の活性化等について、全体の方針として載せている。ただし、具体的な施策については本計画の対象外となる。	—

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 計画全般 (2/3)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
高宮町	どこかの市町を参考にして計画しているのか。また、こういった計画で成功している事例はあるか。	都市計画マスタープランは、都市計画区域がある市町では必ず作らなければならない、広島市や三原市には計画がある。安芸高田市は本来ならこれまでに作らなければならないが、作成できておらず、この度作るようになった。策定にあたっては、他地域の計画も参考として検討している。	—
高宮町	都市計画マスタープランには高宮町も含まれるのか。都市計画区域の扱いはどうなるのか。	本計画は高宮町を含む市全域を対象としている。ただし、都市計画区域を拡大することは予定しておらず、今回の計画により都市計画に関する規制が及ぶことはない。	計画素案p2 (1-4節)
高宮町	都市計画マスタープランによって、高宮町にも建物や土地に関する規制がかかるのか。	都市計画区域を拡大することは予定しておらず、今回の計画によりそのような規制が及ぶことはない。ただし、市全体の方針を定めるにあたり、吉田町だけで計画を検討するわけにはいかないため、規制ではなく、あくまでもまちづくりの方針として、高宮町を含めた市全域を対象に計画を策定する。	計画素案p1 (1-2節)
高宮町	建築基準法に違反しているような建物が高宮町には多くある。増築を繰り返している昔ながらの家などである。3畳ほどの部屋を増築しただけで確認申請を出さないといけないということになると、家を壊さないといけなくなる。家を建てようとしても、建物用地でないため建ててはならないというように、自分の土地であっても、思うように使えなくなるのではと懸念している。	都市計画区域を拡大することは予定しておらず、今回の計画により都市計画に関する規制が及ぶことはない。	—
高宮町	吉田町に都市計画区域があることを理由にコンパクトシティを作ろうとするのは、考え方が安易すぎるのではないのかと思う。「世界一住みたいと思えるまち」をつくるとの市長の方針があるが、本当に世界中の人から住みたいと思ってもらえるまちなのだろうか。	今後、人口減少が見込まれる中、吉田町の都市計画区域内にある現在の都市機能を別の場所に移設させるのは多大な負担を要すると考えられるため、本市としては、現在の都市構造をベースにまちづくりの方向性を検討したいと考えている。	計画素案p39-41 (3章)
高宮町	(都市計画マスタープランには) 市長が掲げている「世界一住みたいまちをつくる」とのエッセンスは入っていないということか。	持続可能なまちをつくるということをテーマに掲げている。それに対しては石丸市長ともすり合わせができています。「世界一住みたいまちをつくる」ことを) 極端に意識しているわけではない。ただし、持続可能なまちを作っていくことが、それにつながると期待している。	—

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 計画全般 (3/3)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
向原町	いろいろ計画を立てても資金がないのではないかと。良いことばかり書いてあっても、本当に実現できるのか疑問である。	すべての公共施設をこれまで通り維持管理できるとは考えておらず、譲渡や廃止を含め、ある程度取捨選択は必要と考えている。 個別施設の位置等は本計画の対象外だが、別途関係部局とも調整の上検討する	—
向原町	教育については、この計画には含まれないのか。土地利用などの話は計画に盛り込まれているが、子供の教育に関する話は記載されていないので、教えてほしい。	学校を含めた都市機能の配置が望ましいエリア設定については本計画において検討するものの、 個別の学校施設の具体的な位置や教育の在り方については本計画の対象外となるため、関連部局と連携して検討する。	—
向原町	この計画を読んでも斬新なものであると受け止められない。今の課題を克服して、2045年に安芸高田市はこうなりますというプランを示してほしい。	計画素案の「基本目標」において、2045年に目指すまちづくりのあり方が明確になるよう、内容を追記した。	計画素案p38,39 (3-1節) 本資料p19
向原町	2045年に人口減少が見込まれるということはわかるが、それを止めるための方策は考えているのか。	移住希望者の受入等について、分野別方針の「地域活性化」に関する取組方針として追記した。	計画素案p49 (4-6節)
吉田町	市長は委員からの質問に対し、マスタープランがまちづくりの方向性を決めるものであり、事業の具体化を目標としないと回答されていた。マスタープランはランドデザインというだけであり、その通りに進むかどうかは分からないが、こういう精神でやりますと示すものという理解でよいのか。	マスタープランは方向性を提示するものであり、 それをもとに別途具体化に向けた検討を行う。	—
吉田町	各旧町を回って最終的なプランを作るのか。	6町で順番に意見交換会を開催している。いただいた各町の意見を踏まえて計画案を修正し、策定委員会で協議を行う。	—
八千代町	都市計画マスタープランは強制力があるものか、補助金などが関係するものか。	本計画は本市や八千代町の機能を維持していくための方針を定めるものである。ただし、絵にかいた餅にならぬように、 具体的な取組を考えていく必要があり、今後、実現化方策等として検討していく。 なお、本計画により、強制力のある規制等は一切発生しない。	—
八千代町	マスタープランを作るということは、これからアクションプランへ結びついていくのかと思うが、今日の意見交換会でも何を意図されているのかが見えない。ただ調査した結果を示しているように感じる。9月号のマスタープランの部分でも微妙な言い方をしている。「エリアに強制的に集めるのか」との質問に対しては、「強制ではなく誘導による人口の集約を目指します」と漠然としている。どのように誘導していくのかが見えない。誘導がアクションプランに結びついていくのであれば回答いただきたい。	本計画の策定により強制的に居住を移転させることはできないが、このままの都市構造ではスーパーや病院等が維持できなくなってしまう。それらの施設周辺を拠点地域として示すことで、これらの機能を地域に維持していきたいと考えている。 アクションプランとしての実現施策も当然必要であり、本計画でも実現化方策という形で検討を行うほか、 個別の施設配置等に関する計画は関連部局と連携して検討を行う。	—

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 現況分析 (1/2)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
甲田町	今回の（意見交換会）資料には介護施設のことが載っていない。ショートステイや特別養護老人ホームは1つしかない。安芸高田市全体の配置を考えていかないといけない。特別養護老人ホームは1町に1つしか作れない。その点についても検討していただきたい。	介護施設の立地状況については、参考資料（第1回・第2回策定委員会資料6を抜粋したもの）において分析している。	—
甲田町	人口が減少した要因は分析しているのか。自然減が要因なのか。出生数と死亡数から自然減であるかを確認し、減った原因について考えて対策を講じるべきである。	人口減少の要因については、日本全体の社会情勢として、1990年頃から少子化・晩婚化が社会問題として認識されだしたほか、働き口を求める若年層が都市部へ流出するという傾向が顕著となったことで、これ以降に人口減少が加速したものと認識している。	—
甲田町	美土里町、高宮町は土地が広いので、人口1人当たりの道路延長が大きくなることは当然である。美土里町、高宮町に住んでいる方々は、甲田町や吉田町に来てもらおうということになるのではないのか。郊外部の市道は管理ができなくなるため、廃止させていただきとされるのではないのか。最終的には美土里町、高宮町にはもう住んでくれるなどといったのではないのか。	美土里町、高宮町は1人当たりの延長が大きいので住んではいけないというわけではなく、人口が減っていることで、様々な課題が出てきていることを示したものである。例えば、人口1人当たりの道路延長を見たときに、広島県全体よりも大きく、今後も増えていくことを示しているものである。美土里町や高宮町に住んでほしくないという趣旨ではない。	—
甲田町	高齢化率は今後さらに大きくなり、維持管理の負担も増えてくるのは理解できるが、逆に負担をしてもらうという考え方を市側でも行う必要がある。お太助バスの赤字についても承知している。免許返納についても、個人の車の年間維持費を算出するなど、細かなデータを示すべきである。包括的にもう少し細かな配慮が必要である。	意見交換会で配布した参考資料（第1回・第2回策定委員会資料6を抜粋したもの）において、課題整理の内容に至る個別の分析結果を示している。これらの内容を踏まえ、住民と行政の関係性等も含め、分野別方針・地域別構想等として示している。	—
甲田町	人生100年時代と言われている現在で、高齢化率の定義についても65歳より上げて、数値の考え方を柔軟にしていけるのも良いと思う。	高齢化率の定義自体は国の基準に基づくものであり、本市独自の指標として定義を変更することは難しい。ただし、アクティブシニア層を含めた地域住民のまちづくりへの参画について、分野別方針の1つに「地域活性化」に関する内容を追加している。	—
甲田町	お太助ワゴンの利用者数が減っている理由は分かっているか。	お太助ワゴンの利用者は、基本的には自分で運転ができない方である。10年前には、高齢女性をはじめ免許を持っていない方が多くいらしたが、近年では運転できる方が増えていることが影響していると認識している。	—
高宮町	人口1人当たりの道路延長は美土里町、高宮町で大きい。地域が広いこともあり、このような結果となっているのだと思うが、単純にこの資料を見ると、美土里町や高宮町が市の負担になっていると思われかねない。合併の際に地域ごとに特色あるまちづくりを進めており、特に道路は地域の存続に関わる施設である。説明をするときに、そういった受け止め方がされないよう、上下水の維持管理費等も含め、出し方は考えるべきである。	美土里町、高宮町は1人当たりの延長が大きいので住んではいけないというわけではなく、人口が減っていることで、様々な課題が出てきていることを示したものである。例えば、人口1人当たりの道路延長を見たときに、広島県全体よりも大きく、今後も増えていくことを示しているものである。美土里町や高宮町に住んでほしくないという趣旨ではない。	—

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 現況分析 (2/2)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
高宮町	人口が減ってきているが、平成7年までの20年間と比較して次の20年間では減少率が大きくなっている。その要因は何か。自然減なのか転居なのか。	両方であると認識している。日本全体の社会情勢として、1990年頃から少子化・晩婚化が社会問題として認識されたばかり、働き口を求める若年層が都市部へ流出するという傾向が顕著となったことで、これ以降に人口減少が加速したものと認識している。	—
吉田町	ショッキングな数値が多く出ていると思った。市長は「世界一住みやすい都市」を目指しているとのことだが、市長から直接その話を聞いたことはない。市長ではないため、答えるのは難しいかもしれないが、そのあたりの考えを教えてください。	市長本人ではないため回答が難しいが、人口減少が進んでいく中でこれまでと同じことをしていたら共倒れしてってしまうという部分は共通認識であると思う。それに伴い、公共施設等はある程度整理していかなければならない。また、活力を生み出すような施策の必要性も市長は考えていると思われる。	—
向原町	15歳～64歳が生産年齢人口と記載されているが、70歳まで働ける人は働ける環境をつくる必要がある。資料では65歳以上は生産年齢ではないような認識に思われるので、実態を踏まえ、70歳までは働くという想定で考えてはどうか。 高齢者の人口密度についても、健康に注意して長生きされている結果として高齢者人口が増えているのではないか。	都市計画マスタープラン内で高齢者の雇用に関する方針を記載することは難しいが、 指摘されている背景事情を考慮して実現化方策等を検討する。 なお、資料としては、国の統計にあわせて65歳を基準に区分している。	—
向原町	人口減少下では1人あたり道路延長が長くなるのは当然である。なぜ人口減少が発生するのかという要因を考察したほうがよいのではないか。	日本全体の社会情勢として、1990年頃から少子化・晩婚化が社会問題として認識されたばかり、働き口を求める若年層が都市部へ流出するという傾向が顕著となったことで、これ以降に人口減少が加速したものと認識している。一方、近年ではテレワークや二拠点居住等も広まっており、新たな暮らし方を踏まえた移住促進による人口増加等については、全体構想の拠点設定の考え方や「地域活性化」に関する分野別方針において追記した。	計画素案p40,49 (3-2節、4-6節) 本資料p20,21
向原町	交通アクセスについて、そもそもなぜ公共交通利用者が少ないのかということを考えてほしい。	公共交通を恒常的に使っているのは、高齢者や免許を持たない方などであるが、このような属性の人口そのものが減少していることなどが要因として考えられる。	—
八千代町	アンケート結果の市外に移動しているという現況についても仕方がないと思う。例えば、安芸高田市には耳鼻科や小児科がない。すると北広島町や広島市にある専門の病院に行くことになる。そういった専門の病院がないことはデメリットだと思う。 交通について、広電のバスやお太助ワゴンがある。しかし、学校の下校時間にちょうどいいバスがないため、歩いて帰らざるを得ない。そういったこともよく考えていただかないといけない。私も小学校の統合の話に関わってきたが、今の話だとこれまでの経緯に矛盾しているように感じる。	八千代町だけであらゆる都市機能を完結させようというわけではなく、スーパー等の日常的なものを各町に維持していきたいと考えている。専門的なものについては、広島市や北広島町、あるいは吉田町へ行く必要があり、広域連携、拠点間連携をしてアクセスできるようにしていく方針である。なお、上記の考え方について、全体構想の拠点設定の考え方において補足している。	計画素案p40 (3-2節) 本資料p20

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 全体構想・分野別方針 (1/4)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
甲田町	吉田町にすべて施設が集まっていくのではないかと皆さん懸念していると思う。そうではないということをきちんと示していかないといけない	甲田町は都市計画区域外であるため、示しているのはあくまで方針である。病院等の施設を新たに作る際には地域拠点エリアに整備いただき、一般居住エリアに多くの方に住んでいただくことで、地域拠点エリアの機能を維持するという方針を示したものである。一般居住エリアに関しても、その外に住んではいけないというわけではなく、新たな移住者にエリア内への居住を推奨するものである。	計画素案p39 (3-2節)
甲田町	生産人口が減るとあるが、若い方々が住み、働くための場所づくりがマスタープランの中では見当たらない。そういった点についてはどのように考えているか。	ご指摘を踏まえ、分野別方針に新たに「地域活性化」の項目を設け、雇用促進や移住促進について追記した。なお、雇用促進や移住促進に関する 個別の施策については本計画の対象外となるため、関連部局と連携して対応を検討する。	計画素案p49 (4-6節) 本資料p21
甲田町	公共交通について、市がかなり費用を負担している。市が大きな費用負担をしている中で、引き続きこのような事業をしようとしているのか。	基本的には、現在ある公共交通を維持していきたいと考えている。お太助ワゴンが「デマンド交通」であり、満員になっているわけではないが、廃止されると移動手段がタクシーのみになってしまうため、今後も維持していく方向で考えている。同様に太助バスも維持する方針である。また、 公共交通の将来方針については、別途地域公共交通計画を策定している最中である。	計画素案p45 (4-3節)
甲田町	公共交通機関について、赤字であるため、あまり利用者がいないのかなと思った。民間のバスやJR芸備線などを維持していくのは分かるが、財政負担が大きいお太助ワゴン、お太助バスを維持していくのはなぜか。	市民アンケートから免許の保有率や運転の頻度を把握している。70歳以上の方について、週に1回以上運転している方が約8割である。運転が困難となった場合に運転免許を返納するかという問いに対し、70歳以上の方の半分以上は返納すると回答している。運転できなくなった方々が病院等に行く場合、お太助バスやお太助ワゴンを使わないと生活できない。そこで、市として移動の足を確保していかなければと考えている。広電等の民間のバス事業者等が利益を確保できない路線に対し、市がお金を投入してお太助バスやお太助ワゴンを運行している。今後、移動困難者の増加が予想されるため、市としてより使いやすい公共交通の提供が必要と考えている。市の費用負担を減らして利用者を増やし、運行を効率化させて、維持していきたいと考えている。	計画素案 p23,24,45 (2-3節、4-3節)
甲田町	(お太助ワゴン、お太助バスについて) 市の費用負担が大きいことが懸念。	本市の基本的な方針として、今後、自ら運転ができない高齢者が増加する見込みであること等を考慮し、既存の公共交通は廃止されないよう、維持存続を目指していく方針である。一方、費用負担の軽減も必要と認識しており、利用者を増やすための取組推進や、利用者のいない便をなくして費用を削減するなどの可能性も含め、 具体的な取組は現在並行して作成中の地域公共交通計画で検討する。	計画素案p45 (4-3節)

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 全体構想・分野別方針 (2/4)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
甲田町	文化遺産について、日野家住宅はあまり認知されていない。自然の中に施設がある湧永満之記念庭園にしてもそうである。安芸高田市に観光資源があっても利用ができない。そうなるのは、早い話が安芸高田市に魅力がないからである。 道の駅「三矢の里あきたかた」にしても、今はまともに運営できていても、5年後10年後はどうなるかわからない。特にハコモノを作ったときに、維持管理のコストは全く計上せず計画だけが先走って後々ためになるということがよくある。	観光振興については、本計画の「基本目標」の1つである地域資源を活かした活力あるまちづくりの内容説明において追記した。なお、 具体的な観光振興施策や個別施設の活用方針等については、関係部局にて検討を行う。	計画素案p39 (3-1節) 本資料p19
高宮町	高宮町からは、現時点では美土里町を通るか甲田町を通るかしないと吉田町へ行けな。道路整備も含めて検討していくのか。また、三次市への生活圏との連携があるはずだが、矢印が入っていない。その理由は道路網の整備がされていないからか。	将来都市構造図は連携のイメージを伝えるものであるため、中心拠点である吉田町と地域拠点である高宮町、市外とを結ぶ三次市をつなぐ矢印は、イメージとして記載する。 一方、地域別構想においては、実際の道路や公共交通機関の整備状況を踏まえて連携軸を検討している。	計画素案p41 (3-2節) 資料2
高宮町	1000年に一度の水害や土砂災害についての説明があったが、市役所一帯は500年に一度の水害でも水没するエリアである。災害リスクの高いエリアに人口を集める方針としているが、防災の対策はどうするのか。コスト的に考えると、中心拠点を美土里町や高宮町にしたほうが良いのではないかと。 災害が起きるとせっかく作った施設が全滅するリスクがある。消防署や市役所などは防災拠点になると思うが、リスクが大きいところに作る必要はないのではないかと。 そういった地域を中心拠点エリアにするよりも、その他の災害が起きにくいエリアに誘導していくべきではないかと。	1000年に一度規模の災害リスクは、命を守るためにどこに避難するかをあらかじめ決めておこうというハザードマップの考え方である。1000年に一度規模の災害リスクを踏まえて居住範囲を検討すると、集団で移転してもらわなければならない、現実的ではないと考えている。 なお、昨年度の8月に多治比川が決壊したが、これは数十年に一度規模の水害である。今回の災害を踏まえ、今後、 内水対策等についても関係部局と連携して検討予定である。	—
高宮町	(本計画に盛り込む内容は) ハードに関わる施策が主になってくるのか。	道路整備や河川改修などの施策を盛り込むこともできるが、現実的には考えていない。既存施設を活用し、いかに費用を抑えつつ維持していくかという観点からの検討が主となる。加えて、地域活性化や防災面等を中心に、ソフト施策についても検討している。	—
高宮町	持続可能なまちづくりをしていくうえで、コミュニティに関わるソフトの部分がありません。やはりハードとソフトの両面がそろって地域づくりが前に進んでいくものである。もう少しソフトに関わる部分、例えば、地域自治の支援のような内容を入れるべきである。	ご指摘を踏まえ分野別方針の柱の1つとして、「地域活性化」に関する方針を追加した。	計画素案p49 (4-6節) 本資料p21

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 全体構想・分野別方針 (3/4)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
高宮町	拠点地域とその周辺以外のところでは、不便でも自分の好みで住んでいるのだからよいのでは、という風に感じられる。	前段で説明した通り、施設の近くに居住者が増えれば施設を維持していけるため、拠点地域の近くに住んでほしいという思いはある。一方、山の近くを好んで住まれる方もおり、そのようなエリアに住まれては困ります、規制をかけます、という話ではない。あくまでも方針に共感していただける方に住んでいただき、施設を維持していきたいということである。吉田町や三次市の施設を使うようになってしまえば、高宮町の施設が維持できなくなってしまうため、共感していただける方に住んでいただくという方針である。 行政がこの方針を実現させるための1つとしては、お店や病院等の施設をしっかりと使ってもらうよう、呼び掛けることと考えている。	—
高宮町	災害に関して、市役所や消防署が浸かるということは誰一人想定していなかった。国交省が管理している長瀬川、江の川は、50年に一度規模の想定をもとに1,2m超えても大丈夫なように河川改修をしているが、20,30mの増水が発生したらどうするのか。	発生確率の低い災害であっても生命を守ることができるよう、1000年に一度規模の災害リスクについても現状分析で整理している。ただし、1000年に一度規模の災害でも全く被害が発生しない範囲で居住範囲を検討することは現実的ではないと考えており、 関係部局と連携し、ハード・ソフト両面の観点から防災対策についても検討していく。	—
高宮町	地域に住むものとしては、高齢化で大変な状況だということは理解している。まずは、交通の問題がある。公共に関して、もう少しアイデアをもって動けるようにしてほしい。	交通に関しては、 並行して地域公共交通計画を策定中であり、特に高宮町については高宮支所や高田IC周辺を交通拠点とした利便性の高い公共交通網を検討する。	計画素案p44,45 (4-3節)
高宮町	高宮町内の田んぼが荒れ地になっているのも対策してほしい。都会から田舎の魅力を見てもらって、移り住んでもらえるような政策を市としてとってもらいたい。	農地対策や移住促進については、本計画でも分野別方針において方向性を提示しているが、 具体的な施策については関係部局と連携して検討する。	計画素案p49 (4-6節) 本資料p21
美土里町	市の産業にかかわる構想はないのか。	ご指摘を踏まえ、都市計画マスタープランの分野別方針においても、工場誘致や観光振興等とあわせて、市全体として雇用促進を図る旨を明記した。	計画素案p49 (4-6節) 本資料p21
向原町	拠点を集約しなくても維持できる方向性についても検討すべきではないか。コロナ禍以降、リモートワーク等も可能な環境となっており、IT技術等を活用しながら、今の生活環境でも安芸高田市が維持できるような方向性を考えた方がよい。	この先10年程度の段階では、インターネットに不慣れな高齢者等も多く、地域拠点到に必要な機能を維持していくことは必要と考えている。ただし、デジタル技術等を活用し、より効率的に地域拠点を維持するための方針について、計画素案に拠点の考え方として追記した。	計画素案p40 (3-2節) 本資料p20
向原町	将来都市構造図に地域拠点ごとを結ぶ線がないが、これは、バスなどを含め、中心拠点を通らないと他地域に行けなくなるということか。	将来都市構造図は都市骨格を概念的に提示したものであり、地域間拠点を結ぶバス路線等についても、需要のある路線は維持していく。なお、 詳細な路線再編案等については、別途策定予定の地域公共交通計画において検討する。	計画素案p41 (3-2節)
向原町	特に通学や通勤において、お太助ワゴンやお太助バスは需要にダイヤが合っておらず、非常に利用が難しい。利用状況や利用者ニーズを繊細に調査した上で検討いただきたい。	本計画と同時に 地域公共交通計画を検討しており、各種データの整理や関係団体へのヒアリング等を通して検討していく。	—

赤文字：本計画外で検討・調整が必要な項目 青文字：今後、計画策定までに検討予定の項目

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 全体構想・分野別方針 (4/4)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
向原町	現実問題として、人口が減少するのだから施設は維持できない。例えば小学校は昔の児童が多かった時代の施設が残っており、今のような大きな施設を維持するという発想が2045年を見据えていないのではないか。	すべての施設をこれまで通り維持できるとは考えておらず、譲渡や廃止を含め、ある程度取捨選択は必要であるが、地域拠点に最低限必要な機能は維持が必要と考えている。具体的な施設の統廃合については本計画の対象外となるが、本計画での方針を踏まえ、関係部局と調整の上、具体的な取組内容を検討していく。	—
向原町	例えば、公園に遊具を整備して広島市の人に遊びに来てもらうなど交流人口の確保も含めて方策を検討してほしい。	ご指摘を踏まえ、交流人口の確保について、地域別構想に追記した。	資料2・p19,25,31,41
吉田町	公共交通はお太助バス、お太助ワゴンをより充実させていくのか、それとも備北交通等のその他のバス会社のものを運営していくのか。	基本的にはデマンド交通であるお太助ワゴン、路線バスの両方を合わせた形を維持したいと考えている。ただし、お太助ワゴンは運行を始めた10年前からは利用状況が変わってきており、金銭的な負担が増えている。その状況も踏まえつつ、公共交通が便利になるよう、今後の運行について考えている。また、地域公共交通計画を作成中であり、今年度末に皆さんにお示しできるかと思っている。	計画素案p45 (4-3節)
吉田町	昨年はかなり大きな水害が起こり浸水した。吉田病院も浸水してあやうく診療がストップしかけた。経済的なこともあると思うが、最も大切なのは「安全・安心な住環境の確保」である。これがなければそこに住めない。多治比川は毎年大雨が降るごとに浸水の報道がある。また、江の川の水位が上がると、吉田が陸の孤島化してしまう、広島方面、千代田方面へもどこにも行けなくなってしまうので、しっかり考えてほしい。	吉田町の都市計画区域に人を集めていかないと将来的に施設を維持していけず、他の町の方が来られても施設を使えない状況になってしまう。一方、今回災害が起こり、本当にここに人を集めてよいのだろうかとの懸念もあると思われる。 現在、江の川が特定都市河川の指定を受け、国、県、市、民間が連携して流域治水計画を作成しているほか、多治比川については県で改修を行っている。これらにより、河川氾濫を防ぐ対策が講じられていく見込みである。 これらの治水対策も踏まえ、住居をどこに誘導するかについては、立地適正化計画にて定める。災害リスクに対してどのような対策が必要かといったことも検討する。 なお、立地適正化計画については、別途意見交換会を開催予定である。	計画素案p48 (4-5節)
八千代町	車を使えなくなる高齢者が増える中で、グラウンド等に行きづらくなる。町全体の問題ではないかと思うし、健康に関することだと思うが、その点はいかがか。	より使いやすい土地がないだろうかという趣旨であると思われるが、都市計画マスタープランは方針を定めるものであるため、エリア別の土地利用方針については分野別方針や地域別構想で検討するものの、個別の土地利用までの検討は予定していない。ただし、同様のご意見は各地でいただいております、別途個別施設に関する計画を検討する際には、いただいたご意見を参考に検討する。	—

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 地域別構想 (1/5)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
甲田町	地域拠点エリアにパルパや徳永病院が外れている。それらは将来なくても良い施設ということか。これまで、甲田支所から川のところまで道を作り、中央通りと支所を中心にコンパクトシティの考え方で、中心市街地を形成するという計画があり、その中にパルパができたという経緯がある。(エリアの指定は)市の政策として行う重要なものにはならないということか。だいたいの目安というだけか。地域拠点の整備となったときに、外れているということになれば、問題になるのではと気になっている。	ご指摘を踏まえ、パルパや徳永病院の範囲については、地域拠点エリアに追加する。 なお、地域拠点エリアの中でできるだけ機能を集約したいとは考えているが、エリア外の施設に対して規制をかけるものではない。	資料2・p35
甲田町	過去の方針で、甲田支所を中心に整備を進めるという計画であったが、途中でとん挫しており、甲田住宅の建て替えも進んでいない。そのように居住スペースをなくして、人に住んでくださいとなぜ言うのか。	人口減少が進む中で、日常生活に必要な都市機能を維持するため、コンパクトシティの考えに基づき、地域拠点の周辺に居住できる方には集まっていたきたいという方針を本計画で示している。 個別施設の扱いについて本計画で提示することは予定していないが、関連部局と連携して施策を検討していく。	—
甲田町	災害リスクのある江の川、大土川の向こう側の地域は陸の孤島と言われている。災害の時に支所周辺まで来るのに、橋を2本渡るのが怖いという状況がある。実際に、昨年私の家は水害の被害を受けた。農地だけは行くが、(避難)施設には行かない。言っていることとやっていることが違うのではないか。	エリアについては、土砂災害警戒区域や浸水想定区域の状況も考慮して設定している。防災に関する取組については、分野別方針の「防災」で検討しているほか、 河川管理者や関連部局と連携して、ハード・ソフト両面からの対策を検討していく。	計画素案p48 (4-5節)
甲田町	甲田町の医療施設はこのままで良いということか。 患者さんは病まれたとき、けがをされたとき、医療機関が近くにあることが重要である。国でもかかりつけ医をつくることを推奨しており、今回のコロナにしても、かかりつけ医に診てもらおうと言われる。かかりつけ医のいる医療機関は、住民のできるだけ近くにあるべきである。医療機関の集約を吉田町で考えられる場合でも、吉田病院があるからよいということにはならない。吉田病院でも何でもできるというわけではない。病院と診療所の役割分担を考えて集約してほしい。	吉田病院や各町の地域拠点にある病院・診療所については、今後も機能を維持していきたいと考えている。加えて、これらの施設に歩いて通えるようになることが望ましいと考えている。	—
甲田町	地域振興会として、国の補助金を活用し、小原地区のまちづくりに関する計画を7年前に作った。それを利用し、広島大学と連携して、2年前には小さな拠点づくりを検討した。しかし、計画を実現しようというところでコロナ禍となってしまった。 これまで、旧小田小学校跡地の利用や、保育園の跡地利用などを検討してきたが、計画があっても財政がついてこないということが問題となり、行き詰っている。実施されたアンケートなどは実情と合っている部分があるとは思っているが、そのあたりについても考えてほしい。	小原のまちづくりについては、計画を確認のうえ、同様の取組を展開していく旨を取組内容として追記した。	資料2・p37

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 地域別構想 (2/5)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
高宮町	<p>吉田町では文化施設であるクリスタルアージュの話がでていいる一方、高宮町ではパラッツォの話は全然出てきていない。パラッツォは昨年からはほとんど利用停止しており、今後も再開する様子は見られない。文化ホールの空調は何百万とかけて修理したが利用可能にならない。文化ホールはやめようということなのかと感じている。どのように考えているのか。</p> <p>文化ホールのなかで高宮町だけの特徴が音響設備である。文化ホールはクリスタルアージュがあるため、他は多目的ホールで問題ないだろうと思うのはどうかと思う。絶対に高宮町に要するという話ではないが、せっかく音響などがしっかりしているのに見せしめのような扱いをされているのはさみしい。世界中の人々にコンサートを聞きに来てもらえるようなホールを作る構想があって、他の施設をなくすというのならそれでも良いが、維持していくという考えがあるなら、計画に盛り込んでいただきたい。</p>	<p>市としては、パラッツォ周辺を地域拠点エリアとすることは共通認識として持ちたいと考えている。</p> <p>パラッツォについては、文化ホールの空調が治らないため利用できない状況であるが、文化ホールとしてのパラッツォの特異性は認識している。ただし、都市計画マスタープランでは、個々の施設に対する整備方針は記載する予定はないため、パラッツォを含めた市内の支所・文化ホール等の扱いについては、本計画とは別途検討していく。</p>	—
高宮町	<p>地域拠点エリア等の線引きされたものを見ると、「枠外に住んでいるから市の恩恵を受けられないのでは」と思わざるを得ない人たちが多く出てくるかと思う。説明を聞くまでそのように思っていたし、それを打ち崩すような説明でもなかったかと思う。</p> <p>住むところを変えさせれば良いという問題でもない。コミュニティであったり人と人との関係であったりという部分がある。長年住み慣れた人との関係を維持したいという想いで住み続けている方も多くいる。</p> <p>前段の説明では、施設を維持していくには経費がかかり、維持しやすいようにどこのエリアに住んでほしい、という説明があった。高宮町の端に住んでいる方もいらっしゃる中で、ただここに住めば便利がよくなる、施設を維持していくためにはここに何人に住んでもらわないといけない、という説明では誤解を招く。</p>	<p>施設を維持しやすいように移住してほしいという意図ではなく、現状の負担や今後の人口減少の予測を踏まえ、このままでは同じサービス水準を今後保っていくことが難しいという問題提起を行いたいと考えている。特定の地域のサービス水準を落とすという話でもない。</p> <p>また、全国的な課題として、何十年間もかけて市街地が拡大したが、人口減少下では市街地が拡大した分維持管理費がかかってしまうため、長い年月をかけて人口規模にあった都市構造にしていく必要がある。</p> <p>上記の意図を明確にするため、計画の前段として、地域の拠点を守るためにこのあたりに人口が必要である、というような大まかな方針を示したという説明を記載した。</p>	資料2・p5
美土里町	<p>もともと、吉田町の一部のみが対象となる計画を市全体に広げるとい話に無理があると思う。特に、地域別構想のエリア設定のような資料が公表されたときに、一部のエリア以外は市が関与しない方針だと受け取られかねないので、うかつにエリアを設定すべきではなく、慎重に取り扱うべきではないか。</p>	<p>将来にわたって地域拠点内の施設を維持するために、市として居住してもらいたいエリアを示すことは必要と考えている。</p> <p>ただし、このエリア設定はあくまで方針であり、特に都市計画区域外において規制や不利益等が発生するものでないことを、策定委員会資料や計画素案において明記する。</p>	資料2・p5

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 地域別構想 (3/5)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
美土里町	美土里町に工場集積エリアがないのはおかしいのではないかと。地域に人々が戻ってこない大きな理由として、働く場がないという意見を聞く。働く場が選択できるためには、多くの企業がある必要がある。美土里町に工場があっても、美土里町の住民が働くとは限らないが、美土里町に働きに来る人は増えることになる。	美土里町の場合は既に工場が密集しているエリアというのではなく、町内に工場集積エリアを設定すると、そのエリアの居住環境が崩れてしまうため、美土里町には工場集積エリアは設定しない。ただし、市全体として、雇用の場として工場を誘致していくという方針については、「地域活性化」に関する分野別方針において明記した。	計画素案p49 (4-6節) 本資料p21
美土里町	美土里町は町全体として田園居住空間のような環境を形成すべきだと思うので、一般的な人を集めていくような話をするのではなく、市全体が農住混在エリアのようなイメージでとらえてもらいたい。	美土里町では可住地の大半を農住混在エリアとして設定しているが、将来にわたって町内に身近な行政・商業・医療等の機能を維持していく必要はあると認識しているため、支所周辺には地域拠点エリアやその施設維持に必要な居住地としての一般居住エリアを設定している。	資料2・p22-24
向原町	向原駅周辺は湿地帯が多く利用されていない土地がある。湿地帯を埋めるなどして、もっと建物が建てられるのではないかと。	向原駅周辺は地域拠点エリアとして既に設定しており、未利用地の活用についても方針として明記している。	資料2・p42
向原町	高校からの通学路の歩道が十分ではない。未利用地が多くあると思うので、住みやすいまちになるよう、学生が駅から簡単に移動できる歩道整備をしてほしい。	「交通」に関する方針として、一般居住エリア内の主要道等における歩道環境整備について記載している。	資料2・p43
向原町	この町の一番の魅力は人とのつながりであると感じている。この計画はハード面を中心とした内容なのかもしれないが、人とのつながりについても検討してほしい。	地域別構想の一項目として、地域活性化に向けた方針を記載する。	資料2・p43他
向原町	2045年に15～64歳になる層の意見も聞くべきではないか。この場では一番メインになるこれらの年代の方の意見が反映されないがそのような方の意見こそ一番反映されるべきだと思う。	パブリックコメントや広報誌での周知等を通して、若年層を含めた幅広い層を対象に意見を収集する。	—
八千代町	根野地区に広場がなくなってしまった。以前は旧根野小学校の跡地のグラウンドで地域住民がスポーツをしたりしていたが、この度保育園がそこへ移転し、利用できなくなった。高台の八千代小学校のグラウンドを借りればよいが、高齢者がグラウンドゴルフをしたりするのに高台に登るのは難しい。これまでは跡地へ身軽にアクセスできていたが、それができなくなった。根野地区には振興会が2つあり、合同で何かしようとなっても場所が確保できない。住民のスポーツの場、みんなが一同に会してして親睦を深める場が根野地区にはない。説明にはそういったことが出てこなかったが、どのように考えているのか。	本計画で個別の施設の整備方針について検討することは予定していないが、地域コミュニティを維持する上で、住民が使える広場がないとの趣旨であると理解し、今後、 広場等の整備について関係部局と調整の上検討する。	—
八千代町	交通について、広電のバスやお太助ワゴンがあるが、下校時間にちょうどいいバスがないため、歩いて帰らざるを得ない。そのような状況もよく考えていただかないといけない。私も小学校の統合の話に関わってきたが、今の話だと今までやってきたことと矛盾しているように感じたというのが率直な意見である。	ご指摘を踏まえ、 並行して策定中の地域公共交通計画において、通学需要への具体的な対応方針についても検討する。	—

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 地域別構想 (4/5)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
八千代町	刈田小学校の跡地にて、一時はグラウンドゴルフができていたが、現在は企業が使用しているようである。	刈田小学校の跡地は、教育委員会のみんなの廃校プロジェクトにて跡地利用に関する案を一般募集させていただき、具体的な話を進めているところだが、まだ具体的な話は決まっていないと認識している。	—
八千代町	上根地区は病院、買い物は吉田へ行くよりも可部へ行く人が多い。上根から吉田のゆめタウンまで行くと15kmであるが、上根から可部の方面へ行くと太田川大橋を越えるとスーパーにたどり着く。高校生もほとんど吉田高校には通っていない。そのような状況の中でお太助ワゴンが勧められているが、お太助ワゴンは市外にはアクセスしない。可部の医療機関やスーパーへ行くために地域で交通を考えなければならないのではないか。先日の新聞で掲載されていた毘沙門台での事例のように、公共交通の利用料金を取らず、付き添い費用500円を負担いただくなどのシステムを考えなければならないのではと想っている。	基本的な方向性としては、市内外の移動はJR芸備線や広電バス等の路線バス、市内の移動はお太助バスやお太助ワゴンといった棲み分けを想定している。ただし、ご指摘の通り、市外の施設を利用した方が効率的な事例もあるとは認識しており、 具体的な公共交通網の設定方針については、別途策定中の地域公共交通計画において検討する。	計画素案p44,45 (4-3節)
吉田町	吉田病院が説明に何度も出てきており、計画の根幹にあるように思う。人口が減っていく中で、今後も吉田病院にいてくださいとの働きかけを市として行っていかなければならない。しかし、吉田病院が浸水してしまうことも考えられ、吉田病院としては今の立地は好ましいと思われないのではと想像する。新しい病院に建て替えができるような用地の確保等を市としてしていくことも考えられる。吉田病院と市は話し合いをされているのか。	吉田病院には様々な科がある総合病院であり、吉田病院があるというだけで住民の方々は安心があるのではないかとと思われる。また、現在は診療所等や個人病院等との連携が取れていると認識しており、その形を崩したくないと考えている。病院に対しては様々な働きかけを実施していくべきだと認識しており、今後、これまでの取組をさらに強力に進めていく。なお、都市計画マスタープランはまちづくりの方向性を示すものであり、個別施設に対する取扱いについては記載を予定していない。	—
吉田町	地域拠点エリアを作っていくのは仕方のないことであると感じた。郷野は地域拠点エリアから外れている。学校もない、病院もない、商店もない、高齢化率は進んでいる。そのようなところに若者は帰ってこない。今住んでいる高齢者が住み続けるしかないだろうと考えている。高齢になると、吉田町に移り住むのも難しい。その際、交通手段の確保が課題となる。周囲には一人暮らしや老人夫婦がおり、お太助ワゴンを利用したいが、利用の仕方がわからないという方もいる。定期的に決まったルートで走る公共交通であれば乗ってみようともなるが、電話で行き先、乗り場所等の調整が必要なこと等がハードルとなっているようだ。今後、高齢化が進んでいくと、さらに問題が出てくるかと思う。中心エリアから外れたエリアに住む人がどのように暮らしていけるかを考え、マスタープランに含めて考えていただきたい。	参考資料にあるように、今後車を運転できない方が増えると考えられ、今以上にお太助ワゴンのようなデマンド交通がないと、移動ができなくなってしまったため、公共交通は充実させていきたい。また、現在の居住地で暮らし続けたい方も多くいらっしゃる認識しており、地域コミュニティの活性化に関する支援を市として実施していく。吉田町以外の町で説明した際にも、同様のご指摘をいただいたことを踏まえ、分野別方針や地域別構想の項目として、特に地域コミュニティの活性化に関する内容等を盛り込んだ「地域活性化」の項目を新たに追加した。	計画素案p40 (4-6節) 資料2・p13他本資料p21

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | 地域別構想 (5/5)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
吉田町	<p>吉田町の中心は旧吉田が中心となっているが、もっと広く可愛を含めて中心としてはどうか。可愛地区は商業施設、老人福祉施設、病院・歯科医院もある。安芸高田市の中で最も人口が増えているのは可愛である。それを踏まえて、中心に旧吉田の中心と江野を含めるのが良いのではないかと。都市下水の範囲を中心としてみているようだが、現状では安芸高田市の中心は旧吉田と可愛を含めたエリアになっているかと思う。</p> <p>都市計画マスタープランは大学の先生などがいくらでも作る事ができると思うが、安芸高田市の都市計画区域をどのようにしていくかはできるだけ早くきちんと提示していただきたい。</p>	<p>ご指摘の通り、吉田町の都市計画区域から人口が流出しており、愛郷小学校の周りで開発が進んでいる。</p> <p>一方、大きな問題として人口が減少しており、今ある都市計画区域に人口を集めるのもかなり難しい状況である。エリアを広げてしまうと人口密度が下がってしまうとの問題があるため、道の駅や小学校がある可愛地区は沿道居住エリアとして別途設定し、副都心的なエリアとして、市内外から人口を集めようと考えている。</p>	資料2・p10-12
吉田町	<p>災害のこともあり、江の川と多治比川の合流点のあたりでは立ち退きが多いと聞く。住宅団地の整備等を進めなければ、移転先に困るのではないかと。移転される方には個々の意見があるかと思うが、そのあたりも構想に入れてはいかかと思う。</p>	<p>災害リスクを踏まえ移住される方にも、吉田町内には残っていただきたいと考えており、その受け皿を作るべきであるというご意見と認識している。具体的な内容は、立地適正化計画の居住誘導に係る施策の中で検討する。</p>	—
吉田町	<p>吉田地区の振興会の日々の活動で感じていることだが、吉田のまちの中で過疎化が進んでおり、特に端のほうで進んでいる。地区の民生委員などの役員が出せない地区もある。</p> <p>私自身は定年になり吉田に帰ってきたのだが、できれば吉田で育ったほかの方にも、定年後に吉田に帰ってきていただきたいし、そのようなまちにしてほしい。</p>	<p>都市計画マスタープランではコンパクトな都市を目指してはいるが、中心拠点以外の地域の住民の方々についても、コミュニティを維持していき、中心拠点への交通アクセスを確保しながら、生まれ育った場所で生きがいを持てるようなまちづくりをしていきたいと考えている。</p>	—
吉田町	<p>地域コミュニティの強化を謳われているが、吉田地区の振興会は壊滅状態である。皆さん役員になりたがらないのである。部長を集めましょうとなっても皆さんしり込みされて決まらない。ただし、行事があった際にはお客さんとして参加したいという方は多くいる。ほかの町は分からないが、これまでのようなやりかたでは地区が持たない。敬老会を開いて75歳以上の方を招待する際も、準備をするのは同年代の方々である。行政に助力していただかないと持たない。</p>	<p>今年の1月に市から振興会の会長にヒアリングを実施した際、役員の手がいないとの意見を多くいただいている。若い人をうまく取り込めていない状況と認識しており、特にコロナ禍で行事が開催できない状況で、若い人との接点を持つ機会がないと伺っている。</p> <p>住民の皆様の関心が高い点は、防災や、高齢者の見守り等の支え合いに関する内容であると認識している。市としても、地域振興会に対して丁寧に聞き取りをしながら、地域の活動を次の世代につなげていくための方法を一緒に検討していく。</p>	—
吉田町	<p>吉田町やその他の町の人口の中に外国の方も含まれているかと思う。マスタープランの中に外国の方が住みやすいとこのことを含めていただけだと思う。</p>	<p>ご意見を踏まえ、分野別方針において、外国人居住者の受け入れ環境の整備（多文化交流）についても追記した。</p>	計画素案p49 (4-6節) 本資料p21

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | その他 (1/3)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
甲田町	数値にしても何十年前の数値を掲げても意味がない。せめて2000年以降の数値を細かく分析する必要がある。農地にしても随分変わっている。所有者がいても実際には法人契約である。そういった状況を全然加味してない。 商工業、農業等の一次産業を考えていく必要がある。広島県がそういったことをおろそかにしてきた現実がある。知事が変わったからといって方向転換しているが、根幹的な解決がなされていない状況で計画が立てられている。	ご指摘の一次産業の活性化については、都市計画マスタープランとは別途検討する必要がある項目であるが、 関連部局とも連携しながら、本計画とも整合が取れるよう検討していく。	—
甲田町	教育の観点だと、甲田町では小学校を統合し、今度は中学校の統合について議論されている。地元の意向が大きいので、一概に良し悪しの判断はできないと思うが、中学校を1つにするとしたら、家族の負担を考慮していない。吉田町からは20分で通っても、高宮町、美土里町からだと1時間かかることもある。 当然リスクを負うことになるが、リスクの低減が考慮されていないことがナンセンスである。我々は変化を求めているわけではない。	学校を含めた都市機能の配置が望ましいエリア設定については本計画において検討するものの、 個別の学校施設の具体的な位置や教育の在り方については本計画の対象外となるため、関連部局と連携して検討する。	—
甲田町	吉田町の計画にしてもきちんと見直すべきである。30年以上前の話であり、合併する前にきちんと見直して提示されるべきだったのではないか。	ご指摘の通り、今の都市計画区域は合併前に決定されたものであるが、合併の際に新市建設計画を作り、6町における方針を示してきた。一方、新市建設計画の策定からも15年以上が経過しており、今回新たなまちづくりの方針を示すため、都市計画マスタープランの策定について検討している。	計画素案p1 (1-1節)
甲田町	都市計画審議会を作らずに民間開発に任せていたのは市である。その結果として今の状況になっており、住民が負担を負うだけである過去のを無理やり作り直すというよりは、過去のをゼロにしてからもう一度作り直してはどうか。	今後、人口減少が見込まれる中、吉田町の都市計画区域内にある現在の都市機能を別の場所に移設させるのは多大な負担を要すると考えられるため、本市としては、現在の都市構造をベースにまちづくりの方向性を検討したいと考えている。	—
甲田町	都市計画区域内の私有財産に規制がかかることに抵抗がある。	規制は住環境を維持するために行うものである。今回、都市計画区域内では立地適正化計画に基づき誘導区域・誘導施設等を設定していくことになるが、既存の都市計画に基づく規制を含め、住環境がきちんと維持されるように検討を実施している。 なお、都市計画区域外では、本計画により新たな規制は生じない。	資料3
甲田町	(吉田町の) 市役所から警察署までのエリアはスーパー等ができています。ただ、賃貸であるため、閉業の際には更地にして返すのが原則だと思う。自分の所有財産を減らしたくないという気持ちがあるのだと思う。	現在吉田町においても空き家が増えている。孫や子供が住まない方々も多いと思われる。昔と比べて、現在は人々の考え方が変わってきており、新しい方々に任せようと思う方もいらっしゃるかと思うので、そのきっかけに都市計画マスタープランがなればと考えている。	—
甲田町	(吉田町の) 銀行への道中においてソーラー発電をしているが、20年後の処分はどうするのか。はっきり言って公害になる。	太陽光発電施設のあり方については、関連部局と連携して対応を検討していく。	—

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | その他 (2/3)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
甲田町	道路をつくると過疎化が進むということは40年以上前から言われていることである。自然環境と共生した暮らしを求める人もいる。また、教育にしても山村留学等の多様性のある教育を考えていく必要がある。	教育の在り方については本計画の対象外となるため、関連部局と連携して検討する。	—
甲田町	甲田町の雇用促進住宅を取り壊す予定という話を聞く。地域の住民が地域拠点エリアに住むようにと促していく中で、80世帯ほどある雇用促進住宅を取り壊すのならば、今住んでいる人々がエリアから出ていってしまう。その後のことは考えていないのか。	人口減少が進む中で、日常生活に必要な都市機能を維持するため、コンパクトシティの考えに基づき、地域拠点の周辺に居住できる方には集まっていたきたいという方針を本計画で示している。個別施設の扱いについて本計画で提示することは、費用面等の検討も必要であるため難しいが、別途、 関連部局と連携して施策を検討していく。	—
甲田町	中心になるところは手厚くして、それ以外は空き家が増えたり、農地や山林では猪等の動物が害になったりしている。そういった細かな部分への対策も示していただくことで、説得力が出ると思う。	農業施策や雇用促進については、本計画の方針を検討する上でも既存計画との整合を図るよう検討しているが、 個別の施策については本計画の対象外となるため、関連部局と連携して対応を検討する。	—
高宮町	アンケートを昨年の12月に実施している。また、3月25日に第1回・第2回の策定委員会をしている。その際に、吉田町に機能を集めていくのではないかと意見を出している。そういった各地域から出た意見を取りまとめて見せるべきである。それはこの資料に含まれているのか。各町の地域振興会から代表1名が選ばれているということで、自分が代表になったが、そういった経過をきちんと話してくれないといけない。	吉田町にすべての機能を集めていくのではないかと誤解を生んでしまっている。地域振興会、女性代表、老人会、学校関係者など様々な立場の方たちの意見を伺うため、今回の意見交換会を開催した。	—
高宮町	30年先、40年先を考えた市町村合併になっていなかった。筍が一斉に芽を出すように、隣町が文化ホールを作ったらうちも作らなければという状況である。市の状況として、すべてが経済に重きを置いたものに感じられる。市長は「世界一住みたいまち」を掲げているが、お金が全くない。	本計画では、既存施設を活用し、いかに費用を抑えつつ維持していくかという観点から方向性を検討しているが、 必要な施策については財政部局とも連携して検討する。	—
高宮町	なぜこのような説明がないまま、先にアンケート調査をしたのか。親切に細かな説明をしていくべきである。6町回って終わりというのではいけない。いろいろな方の意見を聞くべきである。みんなが安芸高田市に住んで良かったと思えるようなまちにしていかなければならないが、住民を除けた状態で話が進められている。パラッツォの話のように、見せしめかと思われてしまう。八千代町では四季の里が閉められたが、その次は高宮町か、次はどこの番だろうかという風に受け取ってしまい、みんなが不安な気持ちを負ってしまう。今日は資料をもらえただけでも良かった。資料にはソフト施策についても入れていただきたい。	ご指摘を踏まえ、地域活性化等に関するソフト面の方針も含め、分野別方針や地域別構想において「地域活性化」に関する項目を追加した。	計画素案p49 (4-6節) 資料2・p31他 本資料p21

2. 意見交換会で出された意見とその対応 | その他 (3/3)

意見の出た町	意見・指摘内容	事務局回答・対応状況	関連資料
向原町	学校は地域文化の要である。地域とのつながりや故郷への愛着、地域への活力維持という観点から、特に小学校までは統廃合するのではなく、分校にしてでも残すべきではないか。	学校を含めた都市機能の配置が望ましいエリア設定については本計画において検討するものの、 個別の学校施設の具体的な位置や教育の在り方については本計画の対象外となるため、関連部局と連携して検討する。	—
吉田町	3月25日に実施した策定委員会にて意見が出ていたと思うが、それを踏まえてこの資料を作ったのか。 委員の方々から出た意見に対し、すべてではないが、幾分かは資料に反映されているということで良いか。	策定委員会にて委員の方々から意見をいただいた。また、市民の方々にきちんと説明し、あらゆる立場の方々の意見を聞いたほうが良いとの意見をいただき、このような会を設けさせていただいた。 今後、委員の意見を踏まえた内容で策定委員会を開催し、そこで意見の反映状況を説明予定であるが、基本的には、分野別方針までの内容については委員の意見を踏まえたものであると認識いただきたい。	—
八千代町	中学校の統合の話が進められているかと思う。例えば八千代中学校がおそらく吉田中学校と一緒になるだろうと思うが、その後のグラウンド等の跡地に関する計画があるか。 八千代町だけに関するだけでなく、施設が統合されたときに残った跡地をどうするのか。	中学校の具体的な再編計画については本計画の対象外であり、別途関係部局にて検討されているところである。学校施設に限らず、仮に 公共施設の統廃合により跡地が発生する場合は、地域住民のご意見を伺った上で活用方策を検討する。	—
八千代町	八千代支所の窓口の時間を短くするとの時間を聞いた。地域の行政サービス等について根幹は行うべきだと思うが、都市計画マスタープランといいながら必要な行政サービスを縮小することについてはいかがかと思う。	窓口の営業時間は短くなるが、マイナンバー等を活用してコンビニ等で手続きができるサービスがあり、周知を進めているところである。 住民の方々に負担をかけないような努力をしていきたい。	—

(参考) 全体構想 | 基本理念・基本目標

○基本目標について、前回策定委員会や地域別意見交換会でのご意見等を踏まえ、計画素案の作成時に4つの基本目標それぞれを定める狙い等について、以下の通り追記しています。

居住や施設が集約された持続可能なまちづくり

人口減少社会においても、日常生活に必要な施設の維持や生活利便性の確保を図るため、住民の生活行動パターンを踏まえた居住や都市機能の集約、施設の適正配置により、持続可能な都市の構築を図ります。
また、市財政の悪化により、道路や水道、公共施設や公共交通機関等といった都市インフラの維持に必要なコストの支払いが困難となることを防ぐため、都市施設の集約及び再編、適正配置、長寿命化等を行い、まちづくりの観点から、より効果的な公共投資を推進します。

だれもが安心して暮らせるリスクに強いまちづくり

高齢社会においても住民が安全・安心・快適に生活できるような居住環境を確保するため、災害リスクの低い安全な地域への居住誘導や住民への災害リスクの周知を図るとともに、都市施設の老朽化対策及び耐震化の推進、防災拠点の整備等、災害に強い都市基盤の整備を進めます。
加えて、防犯対策の観点も考慮し、現在放置されている空き家に対する対策や、今後空き家を増やさないための対策を実施するなど、ハード・ソフトの双方から安全・安心な居住環境の確保を図ります。

■まちづくりの基本理念

未来へ 続くまち 安芸高田

地域資源を活かした活力あるまちづくり

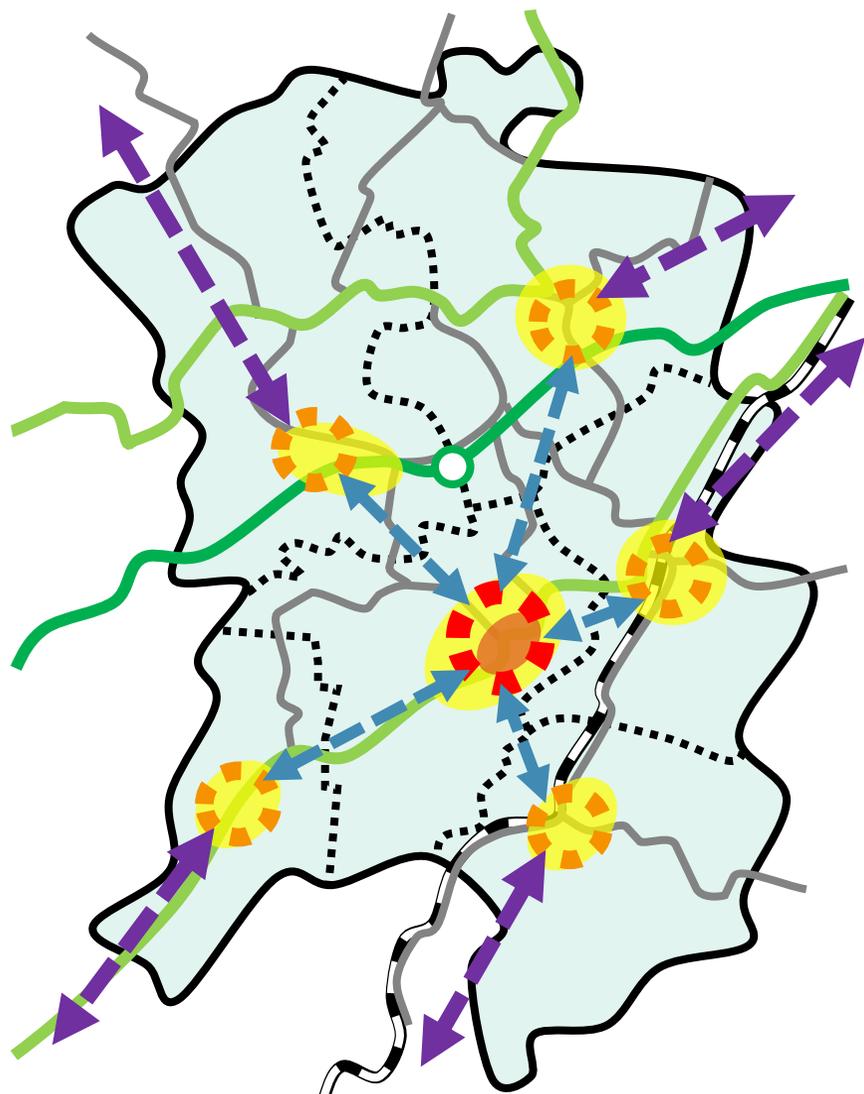
本市ならではの産業の活性化を推進し、住民の生活水準の維持や雇用の創出を図ります。特に、観光業においては、本市の持つ自然・歴史・文化等の資源を活用することで、観光客数の増加、観光消費額の増加に向けた取り組みを強化します。
また、アフターコロナの社会を見据え、古くから安芸高田に住み続ける住民に加え、Uターン・Iターン等により新たに安芸高田に居住する住民等も巻き込んだ、地域コミュニティの維持・強化による活力の創出を図ります。

目的地へアクセスしやすいやさしいまちづくり

自家用車が運転できる人だけでなく、免許返納等により運転ができない人であっても、市内外の都市機能を利用できるよう、誰もが目的地へアクセスしやすい移動環境の整備を図ります。

(参考) 全体構想 | 将来都市構造

○前回の委員会で検討した将来都市構造について、前頁までに整理した社会情勢の変化を考慮したまちづくりの方向性等を踏まえ、各拠点の形成イメージ等について具体化しました。



拠点・軸



中心拠点

本市全体として必要な拠点機能を担うエリアとして、市全体を集客圏域として維持すべき都市機能（総合病院、大型スーパー、広域行政機能等）の集約を図る。
また、広島市や三次市といった広域都市圏を集客圏域とするような都市機能を市民が利用できるよう、市内外の交通結節機能の充実を図る。



地域拠点

地域住民の日常生活に必要な施設等の集約・維持を目指すエリアとして、支所機能や小規模スーパー、診療所、コミュニティセンター等の集約を図る。
特に、自家用車で広域移動やデジタル技術の活用が難しい社会的弱者が日常生活に必要な都市機能を享受できるよう、環境を整備する。



拠点間連携軸

市内の中心拠点と地域拠点を結び、拠点間のつながりを特に充実させる連携軸として、中心拠点へのアクセス環境を充実させる。



広域連携軸

周辺市町との連携により個々の都市の発展を促す軸として、幹線道路や公共交通網の維持・充実を図る。

土地利用（ゾーン）



賑わい創出ゾーン



住環境保全ゾーン



自然共生ゾーン

(参考) 分野別方針の見直し | 地域活性化

○策定委員会や地域別意見交換会において、地域の活力創出やコミュニティ形成に関する内容を充実させるべきという意見が多く挙げられていたことから、新たに「地域活性化」に関する分野別方針を追加しました。

■ 地域活性化に関する現状・問題点

- コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベントでの外出頻度が低下している。
- 高齢化の進行が見込まれる中、将来的に免許返納等により移動困難者が増加する可能性がある。
- 人口密度の低下や高齢化の進行が予想されており、生活水準の維持や生活利便性の確保が困難となる可能性がある。

■ 地域活性化に関する本市の取組

- 旧来のコミュニティが図られてきた大字単位や小学校区単位を主な範囲として、市内に32の地域振興組織と6つの連合組織が設置されており、住民と行政の対話を基礎とした協働のまちづくりを推進している。
- また、平成28年に策定した第2次安芸高田市観光振興計画では、「担い手づくり」「産業づくり」「ファンづくり」を3つの基本戦略とし、市民とともに地域活性化や産業振興を図ることとしている。

■ 地域活性化に関する取組方針

人と人のつながりを基軸としたまちづくりの推進

地域コミュニティの活性化

- コミュニティ形成の場としての中心拠点・地域拠点の活用
- 地域づくりに関する情報提供や懇談会等を通じた、地域振興組織による地域づくりに対する行政支援の充実
- 集会施設の維持・整備
- 地域振興組織と行政の協働による地域づくりの推進
- 地域おこし協力隊等の外部人材の受入
- UIターンや二拠点居住の希望者への情報提供
- 男女共同参画・多文化交流の推進



地域振興組織の区域図

市内で暮らしていくための雇用の場の確保

- 工業団地や中心拠点・地域拠点をはじめとした企業誘致
- 遊休農地の低減や新規就農支援、スマート農業等の推進
- サテライトオフィスの整備・活用
- 商店・企業の活性化や地域産業の育成支援
- スタートアップや地域発のイノベーション創出に向けた支援